

大学博物館の使命としての教育普及活動 — せいなんこどもワークショップ事例紹介と課題 —

山尾 彩香

はじめに

大学博物館が担うべき教育普及活動の使命とは何であろうか。大学博物館という性質上、その活動は大学に在籍する学生に第一に向けられる。しかし大学博物館は社会に開かれた大学の窓口という役割もまた担っている。ならば、大学博物館がなすべき教育普及活動はその二つの使命の全うであろう。西南学院大学博物館では学生教育、そして社会教育への実践の場のひとつとして「ワークショップ」を実験的ながらも、2010年度より取り入れてきた。本稿では、これまでの5年以上に及ぶワークショップ活動の検証を通じて、西南学院大学博物館における教育普及活動の現状と課題を探っていききたい。

1. 大学博物館における生涯学習

日本の博物館法(1951年制定)の第2条において博物館は次のように定義されている。

この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関(社会教育法 による公民館及び図書館法 (昭和二十五年法律第百十八号)による図書館を除く。)のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人(独立行政法人(独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三号)第二条第一項 に規定する独立行政法人をいう。第二十九条において同じ。)

を除く。)が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。

ここで博物館に求められている役割は、資料の収集、保管(育成含む)、展示、必要な諸事業、調査研究である。博物館に求められる教育的役割については「教育的配慮」や「教養」という表現で、それぞれ展示と必要な諸事業の一端におかれているだけである¹。博物館における教育活動が重要視されるようになるのは、1970年代に国際的な広がりを見せつつあった生涯教育の考えが日本にも波及したことがきっかけであった。1981年に文部省が中央教育審議会答申に提出した生涯教育についての答申(昭和56年6月11日)では、生涯教育とは「今日、変化の激しい社会にあって、人々は、自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものである。その意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。この生涯学習のために、自ら学習する意欲と能力を養い、社会の様々な教育機能を相互の関連性を考慮しつつ総合的に整備・充実しようとするのが生涯教育の考え方である。言い換えれば、生涯教育とは、国民の一人一人が充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習を助けるために、教育制度全体がその上に打ち立てられるべき基本的な理念である」²としたりと、2章『我が国の生涯教育に関する状況と今後の課題』において「我が国においては、国民の多様な学習意欲の高まりや教育に対する強い関心・要求に対応して、それを充足する様々な学習機会が提

供されている」として学校教育があげられ、博物館もまた生涯教育への意欲的な取り組みがなされている施設として名を連ねている。その後、1984年には最終答申『生涯学習体制の整備』が掲げられ、1988年にはこれまでの社会教育局にかわり生涯学習局が新設され、1990年に「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」(「生涯学習振興法」)が公布されると、いよいよもって博物館は生涯学習実現のための施設として一躍重要な位置づけをされることとなった³。

一般的な博物館と原理的に違いの無い大学博物館において、生涯学習に対する姿勢もまた、近年になって指針が定められるようになった。1996年に第14期文部科学省審議会学術資料部会により提出された『ユニバーシティ・ミュージアムの設置について』と題された中間報告の第3章『ユニバーシティ・ミュージアムの整備』において、大学博物館(ユニバーシティ・ミュージアム)とは「大学において収集・生成された有形の学術標本を整理、保存し、公開・展示し、その情報を提供するとともに、これらの学術標本を対象に組織的に独自の研究・教育を行い、学術研究と高等教育に資することを目的とした施設である。加えて、『社会に開かれた大学』の窓口として展示や講演会等を通じ、人々の多様な学習ニーズにこたえることができる施設」とある。さらに、その教育機能においては「学術標本を基礎とした大学院・学部学生の教育に参加するとともに、博物館実習をはじめ大学における学芸員養成教育への協力を行う。また、一般の博物館の学芸員に対する大学院レベルのリカレント教育や、人々の生涯にわたる学習活動にも積極的に協力することが望ましい」とあり、生涯学習を積極的に支援する必要性を明記している。

2006年に開館した西南学院大学博物館は「西南学院大学博物館規則」(制定：2005年10月5日)の第3条において設置目的を以下のように定めている。

西南学院大学博物館(以下「博物館」という。)は、次に掲げる事項を目的とする。

(1)キリスト教文化、教育文化、地域文化、西南

学院史等に関する博物館資料(以下「資料」という。)の収集、整理、保管、閲覧及び展示に関する事項

(2)前号の資料の調査研究に関する事項

(3)本学学生、教職員等の西南学院関係者並びに一般市民等の教養及び調査研究に資するため必要な事業の実施に関する事項

ここでは、西南学院大学のキリスト教主義教育にしたがって、キリスト教や教育文化、福岡という立地に鑑みた地域文化、大学の母体である西南学院の歴史に関する博物館業務をおこなうことを目的の第一に挙げている。その対象は本学学生、教職員、西南学院関係者等(教会関係者および学生保護者、保証人など)、そして一般市民等となっている。教育機関である大学の附属施設であり、学校法人が運営する大学博物館は、基本的に在籍する学生を第一に対象とするが、社会に開かれた大学の窓口としての役割もまた重要な使命である。生涯学習の一助となる大学の特性を生かした一般市民向けの展示、公開講演会、ミュージアムトークは勿論のこと、児童向けの教育普及活動にも積極的に取り組んでいる。そのひとつが「せいなんこどもワークショップ」である。

2. せいなんこどもワークショップ

西南学院大学博物館では教育普及活動として、2010年度より「楽しみながら学べる」をコンセプトに、主に大学周辺の小学生を対象とした「せいなんこどもワークショップ」(以下、ワークショップ)を毎年度開催してきた(付録1参照)。小学生向けのプログラムを作るにあたっては、参加者に西南学院を理解し、大学博物館を身近に感じてもらい、参加を通じて特別展や常設展示への認識を深めてもらうという目的がある。前章の西南学院大学博物館規則第3章で挙げた「キリスト教文化、教育文化、地域文化、西南学院史等に関する」事柄は、そのまま西南学院大学博物館の特色ともなる。ワークショップではこれら3つの要素「コンセプト：楽しみながら学べる」、「目的：西南学院の理解、大学博物館への親近

感、展示への関心づくり」、「特色：キリスト教文化、教育文化、地域文化、西南学院史等」を意識したプログラムづくりがなされる。

また、2014年度より大学博物館連携事業(大学博物館連携、地域博物館連携)の一環として館外ワークショップである「せいなんおでかけワークショップ」を行っている。協定先である長崎県南島原市および熊本県天草市や、共同事業を行う大学博物館に赴き、西南学院大学博物館のPRや交流を図ることを主な目的として様々なワークショップを開催している(付録2参照)。

ワークショップの企画運営は、基本的に西南学院大学博物館(以下、博物館)の学生を含む臨時職員を中心として行われる。年度のはじめに、1年間の大まかなワークショップスケジュールが生まれ、それをもとに各回の担当者となった臨時職員が企画を考えることとなる。プログラム内容は毎回変わるものの、①聖書植物園・常設展示関連、②春季特別展関連、③博物館実習成果展関連、③秋季特別展関連、④年中行事(季節もののイベント)が基本的な枠組みとして存在し、それぞれが1～2か月に一度の頻度で開催される。

また、ワークショップでは学生ボランティアも広く募集している。学生ボランティアは西南学院大学生(大学院生含む)を対象としたもので、活動内容は主にワークショップ当日の参加者との交流である。そこには博物館に馴染みのない学生に対して博物館活動の理解を促すとともに、参加した学生ボランティアが社会人となる際に求められる協調性や発想力、状況判断に基づく臨機応変な対応ができるような実践教育の場としての役割も考えられている。

ここからは実践例として2014年度「わたしのせいなんミュージアム」を挙げ、博物館におけるワークショップの具体的な取り組みを以下に記す。

実施例 「わたしのせいなんミュージアム」

開催日時：2014年8月2日(土)10:00～12:00(2時間)

開催の目的：

- (1)特別展「海路—海港都市の発展とキリスト教受

容のかたち—」関連イベント

- (2)博物館で主体的に学ぶ姿勢をはぐくむ

- (3)物事を様々な視点で捉え、まとめる能力を身につける

- (4)参加者だけでなく保護者にもワークショップの成果を実感してもらう

- (5)博物館実習生への実践的教育

参加者：小学生4名、保護者4名

学生ボランティア：2名

博物館実習生：4名

博物館スタッフ：3名

会場：西南学院大学博物館、西南コミュニティセンター
内容：

- 1 学習ノートを配布し、ボランティアや実習生とともに博物館内を探索し問題を解いて回る。
- 2 学習成果発表会(学習ノートに取り組んだ成果を保護者の前で発表)
- 3 学生ボランティア、実習生、保護者から口頭で参加者へ向けてのメッセージと感想

i) 企画

2014年度に組まれた1年間のスケジュールでは、計4回のワークショップ開催が決定していた。各回のワークショップの全体統括者として企画、運営、報告を行う主担当(1名)と、主担当の補佐となる副担当(1～2名)が決まると、大まかな内容が主担当(以下、担当)によって考えられることとなる。各担当によるワークショップの提案内容が適切であるという学芸員の許可が下りると、次にワークショップ参加者募集のポスター(図1)が作成される。

作成されたポスターと、ポスターの裏面に申し込み用紙(図2)を印刷したチラシは博物館内、外部利用者の多い西南クロスプラザ(大学食堂)内の掲示板等に設置されるほか、博物館公式ホームページ(www.seinan-gu.ac.jp/museum)、SNS(Twitter、facebook)といったネット上でも公開される。ワークショップでは万一の事故に備え参加者の保険加入を行っているため、事前募集制度を採用している。また、同時期に学生ボランティアの募集も開始され

せいなんがくいんだいがくはくぶつかん
西南学院大学博物館 ともワークショップ

わたしのせいなん ミュージアム がくしゅう 学習ノート

しょうがっこう ねん ぐみ
小学校 年 組

なまえ
名前

2014年8月2日 今日やること

★1・2ねんせいグループ

- ・もんだい1 2～3ページ
- ・もんだい2 4～5ページ
- ・わたしの夢のミュージアム . . . 9ページ
- ・今日の感想 10ページ

★3・4年生グループ

- ・もんだい1 2～3ページ
- ・もんだい2 4～5ページ
- ・問題3 6～7ページ
- ・わたしの夢のミュージアム . . . 9ページ
- ・今日の感想 10ページ

★5・6年生グループ

- ・問題3 6～7ページ
- ・学習テーマ 8ページ
- ・わたしの夢のミュージアム . . . 9ページ
- ・今日の感想 10ページ

1

★はくぶつかんをたんけんして、こたえをみつけよう！

もんだい1

① ～3のスタンプにかかっている絵はなんだろう？
さがしてなまえをこたえよう。

① 聖書の民、イスラエルの歴史



_____ しごん 碑文

ヒント：くろい、あかさい。

_____ マメ _____ マメ

ヒント：マメはまじゅういあるよ。

ヒント：「ショーファル」ともいうよ。

② 聖書の写本



_____ ぶんしよ 文書

ヒント：つぼのなかにはいついたよ。

_____ せいしよ 聖書

ヒント：ザルやウサギのえがかかっているよ。

2

③ 魔鏡



ヒント：ひかりをあてるとキリストがうかびあがるよ。

④ キリスト教の母体としてのユダヤ教



_____ ししごう 指示棒 ()

ヒント：ヘアライゴで「て」といういみだよ。

_____ かたか 肩掛け ()

ヒント：おいのりするとき、かたにかけるよ。

⑤ 九州のキリスト教



_____ かろあぞう 観音像

ヒント：とくべつてんじしつにあるよ。

3

もんだい2

はくぶつかんのたてものについてしらべよう。

(1) どんな建物のかな? どんなもので出来ている?

建物の外からみると (1) () で、中からみると (2) () でつくられている。



①



②

(2) 誰がつくったのかな?



ヒント: がいこくじんだふ。
3かいでしらべてみよう。

4

(3) いつできたのかな?



_____ 年
ヒント: 3かいでしらべてみよう。

(4) 2かいと3かいのゆかの下に、しきつめられているものはなんでしょう?



_____ (石炭の燃え殻)
ヒント: 2かいのどこかに、ゆかのしたをのぞけるまどがあるよ。

(5) まどはぜんぶでいくつあるかな?



ヒント: たてものまわりをまわってかぞえてみよう。

5

問題3

特別展「海路～海港都市の発展とキリスト教受容のかたち～」
について調べましょう。

(1) この「海路図屏風」はどこからどこまでの航路(船の道)を描いているものですか。



_____ から _____ まで

チャレンジ問題 (おぼかしさ★★★)
福岡はどこにあるのかな? 探してみよう!

(2) 日本にキリスト教を伝えた、この人物について答えましょう。



この人物の名前は何ですか。

どこの国から来ましたか。

何年に日本にきましたか。

_____ 年

6

(3) 船を描いた絵馬はどんなものだったのでしょうか。



船絵馬は (1) () の人が
航路の (2) () を折って、
神社やお寺に奉納されるものだった。

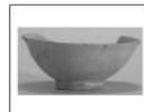
(4) これらの陶磁器(やきもの)はそれぞれ、どこの国から船で運ばれてきたものなのでしょうか。答えの組み合わせを線で結びましょう。



天目碗



青磁皿



白磁碗

朝鮮王朝

高麗

中国

7

がくしゅう てんじゆん、ちゅうし、つく
学習テーマ：展示品の調査を作ろう。

はくぶつかん、てんじゆん
 博物館の展示品をひとつ選んで、スケッチや調べたこと、気付いたことを書いてみよう。

スケッチ

てんじゆん、なまえ
展示品の名前 _____

ねんだい、しよぞんはくぶつかん
年代 _____ **所蔵博物館** _____

えらぶ、しん
選んだ理由・調べたこと・気付いたこと

8

★わたしの夢のミュージアム

もしも、あなたが博物館の館長になったら、どんな博物館をつくりますか？

はくぶつかん、なまえ
博物館の名前 「 _____ 」

はくぶつかん
博物館のテーマ…どんな博物館？

(_____)

てんじゆん
展示するもの

(_____)

イメージ図…博物館の絵や、展示するものをかこう。

9

きょう、かんとう
今日の感想

はくぶつかん
博物館のおねえさん、おにいさんへのメッセージ

先生へ

_____ **小学校** _____ **年**

_____ **より**

10

図3 『わたしのせいなんミュージアム学習ノート』(原本A 4)

に、建物の建築構造もまた展示の一部として活用するため、壁や床の一部にのぞき窓が設置された。建物に関する問題はそういった展示も踏まえ、館内だけでなく館外まで探索の足を広げじっくりと観察しなければ解けない問題構成にした。一方で高学年向けの問題3では、特別展「海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—」の資料の観察とキャプションの読解を必要とする問題を設定する。(2)の展示資料の調書シートは高学年向けのものの学習課題として、「展示資料紹介」を目的とした、簡易的な調書シートを用意した。これは、資料の細かな観察や学習を促すだけでなく、博物館で働く学芸員の仕事のひとつである調書作成を通して、博物館への興味関心づくりもねらいにあった。後者のねらいを引き継いだ低学年向けの(3)「わたしの夢のミュージアム」と題した課題では、参加者に「博物館の館長になったら、どんな博物館をつくりませんか？」と問いを投げかけ、オリジナルの博物館の構想を考えてもらう内容となっている。そのページは博物館の名称、展示テーマ、展示資料内容、博物館のイメージ図で構成されている。最後の(4)の感想とメッセージは博物館側が回収して成果物として保管できるよう、ページが切り取れるように工夫をしてある。これはワークショップの全体の反省に生かせるよう、参加者の反応を明確に残すねらいがあった。また、学生ボランティアや実習生に向けてのメッセージを参加者に書いてもらうことで、学生の博物館活動に対する意識をより印象深いものにする目的もあった。

『学習ノート』の構想を固めると、ワークショップの主要内容も定まってくる。問題ごとの難易度を設けたことから、学年ごとにグループ分けが必要となった。そのため各グループには最低1名以上の博物館実習生あるいは学生ボランティアを担当させ、グループで博物館を探索しながら学習ノートを完成させていくのを大まかな流れとした。学習ノートの進め方については、時間に余裕があればすべての問題に取り組み、学習ノートの完成を目指すとし以下のようにした。

学年別グループと学習内容

【1・2年生グループ】

問題1→2→夢のミュージアム

→感想・メッセージ

【3・4年生グループ】

問題1→2→3→夢のミュージアム

→感想・メッセージ

【5・6年生グループ】

問題3→調書→(夢のミュージアム→)

感想・メッセージ

iii) 保護者を視野にいれた「学習成果発表会」

これまでのワークショップでは原則として参加者の保護者は送迎のみで、ワークショップへの参加は自主性や社会性を養うことへのねらいから、子どものみに限定してきた。しかし、ワークショップを通して保護者へも何らかのアプローチを試みたいとの考えから「わたしのせいなんミュージアム」では保護者を巻き込む子ども向けワークショップのプログラ

わたしの夢のミュージアム発表文

小学校 年

もしも、わたしが博物館の館長になったら、こんな博物館をつくりたいです。

博物館の名前は _____ です。

この博物館のテーマは _____ です。

なぜこのテーマにしたかというところを _____ からです。

博物館には _____ を展示したいです。

みゆん

もしも、わたしが博物館の館長になったら、こんな博物館をつくりたいです。

博物館の名前は じゃんニャンはくぶつかん です。

この博物館のテーマは 動物のネコ です。

なぜこのテーマにしたかというところを わたしはネコが好きで、ネコに関係のあるものがたくさんある博物館があったらいいなと思った からです。

博物館には 世界中のネコや、そのネコの暮らし を展示したいです。

図4 わたしの夢のミュージアム発表文(原稿)

ム作りを目指した。それがワークショップ後半に実施した学習成果発表会だ。

学習成果発表会は、ワークショップの前半で取り組んだ『学習ノート』の答え合わせ、および課題(調査、わたしの夢のミュージアム)の発表を保護者の前で行うもので、低学年参加者には発表の補助とし

て、穴埋め形式の発表原稿(図4)を用意した。この学習成果発表会は保護者に対する、①博物館の教育普及活動への関心と理解の促進、②発表内容を通しての博物館宣伝、③親子間のコミュニケーションづくり、④ワークショップ参加の成果報告を目的として定めていた。また、参加者にも学習成果発表会を

8月2日WS 「わたしたちのせいなんミュージアム」(スタッフ用)

担当: 山尾 嗣 阿部, 内島
 実習生4名 [] [] [] []
 学生ボランティア2名 [] []

＜スケジュール＞

9:00 集合、準備・打ち合わせ
 ・博物館事務室に荷物置いて、コミュニティセンター多目的室1〜3で作業
 ・机の準備、保護者用の席準備

9:30〜 受付開始(コミュニティセンター)
 ・担当グループごとに着席。担当の子どもとコミュニケーションをとって下さい。

10:00〜 スタッフ紹介・説明
 ・学習ノート配布、名前記入
 ・各班準備出来次第、博物館へ移動

10:15〜 館内見学(60分)
 ・学習ノート取り組み
 ・実習生企画展見学

〜11:15 コミュニティセンター全員集合
 ・夢のミュージアム、感想、メッセージ書き
 ・発表準備

11:30〜 学習成果発表会
 ・答え合わせ発表
 ・個人発表
 ・(・感想発表)
 ・各担当者、保護者から一言
 ・集合写真撮影
 ・感想・メッセージページ切り取り回収、発表文回収。

12:00 ワークショップ終了・片づけ
 12:30〜45 反省会・解散

＜各担当＞

山尾→進行、巡回サポート
 阿部→カメラ、巡回サポート
 内島→カメラ、コミュニティセンター後援(保護者対応)
 1・2年生グループ(3名) [] [] []
 3・4年生グループ(3名) [] [] []
 5・6年生グループ(1名) []

＜目的＞

- ・ワークショップを通して、物事を様々な視点で捉え、まとめる能力を身につける。ひとつの目標に対しての集団での取り組み方を体験する。博物館で主体的に学ぶ姿勢をはぐくむ。
- ・子どもたちの夏休みの自由研究のひとつとして、学習成果物を持ち帰ってもらう。
- ・保護者に対しても、ワークショップの成果パフォーマンスを伝える。

＜主要内容＞

各学年ごとにグループ分け(各班最低一名のスタッフ) 謝こどもの単独行動は厳禁

- ・学習ノートを博物館内をグループで見学しながら完成させていく。
- ・各グループ内で、スタッフがつけるのであれば小グループに分かれても良い。その際は必ず、博物館職員(山尾、内島、阿部)に伝える。
- ・実習生見学者も兼ねるので、各グループ一は実習生がつく。

学習ノートの進め方

- ・時間に余裕があれば、学習ノートの完成を目指す。
- ・感想・メッセージのページは発表会後、切り取って博物館側が預かる(成果展示用)
- 1・2年生グループ・・・問題1→2→夢のミュージアム→感想・メッセージ
- 3・4年生グループ・・・問題1→2→3→夢のミュージアム→感想・メッセージ
- 5・6年生グループ・・・問題3→学習テーマ：調査→(夢のミュージアム)感想・メッセージ

学習成果発表会

- ・最後にコミュニティセンターで答え合わせ、個人発表をみんなで行く。
- ・必ず一人一問は発表させるので見学前か、発表準備時に相談して発表担当の場所を決めておく。

【各グループ答え合わせ担当箇所】 一人一問は発表するように。

- 1・2年生→問題1
- 3・4年生→問題2・3 ※5年生の人数が少ないので問題3も5年生と分担
- 5・6年生→問題3

【個人発表】 答えあわせの発表とは別に、子どもたち自身の発表を目指す。完成しなかった場合は、感想のみ発表してもらおう。

- 1〜4年生→夢のミュージアム紹介 or 感想
- 5・6年生→学習テーマ：展示品紹介 or 感想

＜大きな流れ＞

スタッフ紹介・内容説明(15分)

- ・スタッフ自己紹介
- ・学習ノート配布、名前記入、説明
- ・班の担当スタッフ進行のもと準備出来次第、博物館へ出発

館内/実習生企画展を各グループ自由見学(60分)

- ・館内を見学しながら、学習ノートに取り組み。
- ・実習生展はグループ担当の実習生による案内。

【実習生展説明の流れ目安】あくまでも目安なので、そのときの流れで判断して下さい。

- 1・2年生グループ→問題1が終わった時点
- 3・4年生グループ→問題2が終わった時点
- 5・6年生グループ→問題3が終わった時点

・1〜4年生の各組は「夢のミュージアム」はコミュニティセンターに戻って取り組むので、様子を見てコミュニティセンターに早めに戻るようにする。

・5・6年生の班は、調査が完成したら、事務室でコピーをとってもらい山尾に渡して下さい。

コミュニティセンターで発表準備(発表15分前には全員集合)

- ・夢のミュージアム取り組み、発表文(A4)を配布、記入。
- ・発表担当箇所の割り振り。
- ・感想・メッセージを書いてもらう。

学習成果発表(30分)

- ・学習ノート問題1〜3の答え合わせ発表
- ・個人発表(夢のミュージアム、調査)
- ・(・感想→時間が余っていれば発表)
- ・グループ担当、保護者から一言

ワークショップ終了

- ・集合写真撮影
- ・感想ページ切り取り、夢のミュージアム発表文回収
- ・コースター配布
- ・片付け
- ・反省会

2014年8月2日(土)
 せいなんこどもWS「わたしたちのせいなんミュージアム」グループ表

グループ	名前	ふりがな	性別	学年	担当
1・2年生	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
3・4年生	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
	[]	[]	[]	[]	[]
5・6年生	[]	[]	[]	[]	[]

博物館職員 山尾、阿部、内島

図5 ワークショップスタッフ用マニュアル

時間	内容	詳細
9:00	集合、準備・打ち合わせ	・博物館事務室に荷物を置いて、コミュニティセンター多目的室1～3で作業 ・机の準備、保護者用の席準備
9:30～	受付開始	・担当グループごとに着席 ・子どもとコミュニケーションをとる
10:00	ワークショップ説明	・学習ノート配布、名前記入 ・各班準備出来次第、博物館へ移動
10:15	館内見学	・学習ノート取り組み ・実習生展見学
11:15	コミュニティセンター全員集合	・夢のミュージアム、感想、メッセージ書き ・発表準備
11:30	学習成果発表会	・答え合わせ発表 ・個人発表 ・感想発表 ・各担当者、保護者から一言 ・集合写真撮影 ・感想・メッセージ、発表原稿回収
12:00	ワークショップ終了	・撤収 ・反省会 ・解散

表1 「わたしのせいなんミュージアム」スケジュール



『学習ノート』取り組みの様子

設けることで、ワークショップへの取り組みをより意欲的なものへとするねらいもあった。学習成果発表会の最後には保護者からの感想を伝えてもらう時間も設け、これは参加者、保護者、博物館の三者にとって有意義なものとなった。

iv) 運営：博物館教育実践の場として

ワークショップの当日は博物館スタッフ、学生ボランティアの打ち合わせから始まる。学生ボランティアには事前にスケジュールや内容を伝えており、当日に詳しい打ち合わせを行う。「わたしのせいなんミュージアム」では博物館実習生が中心となるため、ワークショップ前日の実習時間に事前に打ち合わせを行っていた。開催ごとに用意されるワークショップスタッフ用のマニュアル(図5)と、答えを載せたスタッフ用の『学習ノート』をもとにスケジュール(表1)、内容、グループの担当、注意点等の確認が終わると、受付や会場設営の準備に取り掛かる。

「わたしのせいなんミュージアム」では事前申し込みで12名の参加者が予定されていたが、最終的な参加者は1年生2名、3年生2名の計4名となった。そのため、想定していたグループ行動を急遽変更し、

参加者1名に対して実習生および学生ボランティアを1～2名つけるマンツーマン体制をとることとなった。学生側も急な変更にも関わらず臨機応変な対応をみせ、これによりグループの引率者とその一員としてではなく、パートナーとしての学生と参加者の関係が築かれることとなった。このことは『学習ノート』への取り組みを抄らせ、当初予定していた学年ごとに設定していた問題集のすべての問題を、学年に関係なく参加者全員が完成させることとなり、結果としてより親密で学習効果の高いプログラムとなったのは僥倖であった。なお、想定していた実習成果展の案内は当日の設営が間に合わず叶わなかった。

博物館での『学習ノート』の取り組みを終えた後、机と椅子を用意してある場所へと移動し、そこでは「わたしの夢のミュージアム」の課題に取り組んだ。この課題は発想力を必要とするものであったため、なかなか筆が進まない参加者が多かった。ここでは事前に学生に対して、参加者の好きなものやどういった博物館に行ってみたいか、などのコミュニケーションを通して取り組むように指示をしており、パートナーである学生の助けを借りて、参加者

課題：わたしの夢のミュージアム

【作成例1】

博物館名称「きょうりゅうはくぶつかん」

展示テーマ「ティラノ」

展示するもの「ティラノの子、大人」

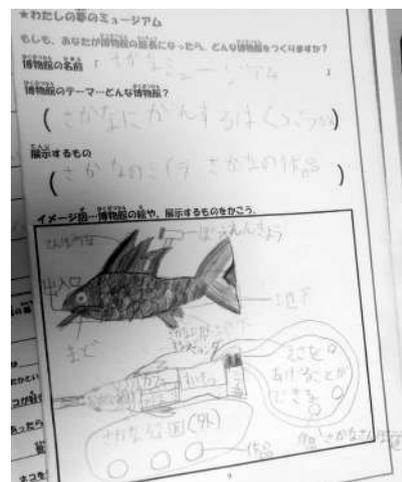


【作成例2】

博物館名称「さかなミュージアム」

展示テーマ「さかなにかんするはくぶつかん」

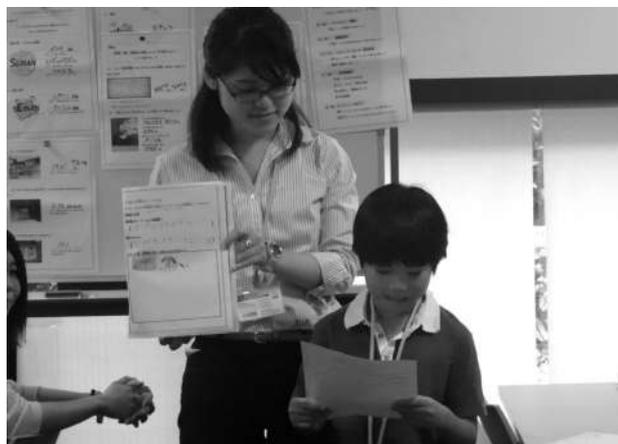
展示するもの「さかなのミイラ、さかなの作品」



全員が課題を完成させることができた。展示資料紹介の調書シートは高学年の参加者がいなかったため取り組まなかった。

『学習ノート』を完成させると、次は学習成果発表会の時間だ。事前に保護者には発表会の旨と時間を伝えており、参加者4名のうち3名の保護者が発表会に参加することとなった。学習成果発表会では、まず博物館で取り組んだ『学習ノート』の問題集の答え合わせから行った。問題ごとに挙手をし、口頭で

発表するというものであったが、すべての問題で参加者全員の手があがり、臆することなく元気よく正解を発表してくれた。答え合わせの次は、「わたしの夢のミュージアム」の発表となり、ここではパートナーである学生に該当のページを持ってもらいながら、用意していた発表原稿文を手を、保護者に向けて発表を行った。1年生や3年生とは思えない、しっかりとした発表と個性豊かなミュージアムの紹介に保護者からは拍手が送られた。参加者の発表が



学習成果発表会の様子

終わると、今度は参加者のパートナーである学生、そして保護者からの口頭で感想を発表してもらった。学生は参加者がいかにワークショップに頑張っており、取り組んだかを保護者に知らせ、保護者からは普段とは違った参加者の学習姿勢への感動と学生への感謝の言葉が送られた。学生や保護者からの言葉に、参加者は気恥ずかしそうにしながらも満面の笑みをたたえていたのが印象深い。

プログラムに参加しての感想は参加者が書いた『学習ノート』内の感想・メッセージと同様のシートを保護者にも配布し回収した。ワークショップに参加した学生たちの満足度も高かった。

参加者と保護者による感想

<参加者>

- ・今日はたのしかったです(3年生)
- ・コースがずっとつづいててびっくりした(1年生)
- ・一番のりだったからうれしかったです(3年生)
- ・たのしかった(1年生)

<保護者>

- ・普段、触れ合うことのない大学生のお姉さんと組んでの作業に笑顔がはじけていました。異世代の人たちの前での発表もよい経験になったと思います。貴重な体験のできる機会をありがとうございます

ました。

- ・今日は、よい機会をいただきありがとうございました。子ども達の学ぶ姿勢(走りまわりながらも)調べることの楽しさを体験する事が出来て、とても良かったと思います。また、発表もすばらしく、全く知らない人の前で緊張するのかと思っていたましたが、みんなとても上手でした。本日は本当にありがとうございました。
- ・家庭では見られない息子の一面が見ることが出来ました。調べたりすることはとても好きな子ですが、人前での発表が苦手な面があったので、りっぱに発表している息子を見て感動致しました。すばらしい時間をありがとうございます。

v) 報告：博物館教育普及活動の宣伝と課題と改善

ワークショップが終了すると、その日のうちに主担当あるいは副担当が、実施したワークショップの館外に向けた報告を行う。ワークショップの概要と写真を、博物館ホームページ(図6)やFacebook(図7)で公開するのだ。この報告は博物館の教育普及活動の宣伝も兼ねている。

主担当は後日、これとは別に館内向けのワークショップの実施報告書(図8)を作成する。実施報告書では、プログラムの内容(実施日、会場、申込人数、



図6 西南学院大学博物館ホームページでの報告



図7 西南学院大学博物館Facebookでの報告

参加人数、プログラム担当者)、概要、プログラムを終えての自己評価と総評、評価すべき点、改善点と課題、解決策、参加者の声、学生ボランティアに

ついて、学芸員評、記録写真といった項目が設けられている。実施報告書を通して全体の振り返りをする事で課題と改善点が見えてくる。これらの情報は今後のワークショップづくりには欠かせないものだ。そのため、実施報告書は博物館職員であれば誰でも閲覧できるシステムがとられている。ワークショップの担当者はプログラムをより良いものとするために、これらの過去の実施報告書などをもとに、次のワークショップづくりに励むのだ。その年度に開催したワークショップは、次年度に発行される『西南学院大学博物館年報』にてもまとめて報告される。ここまでの西南学院大学博物館におけるワークショップの一連の流れとなる。

3. 課題と展望

2010年度より開始されたせいなんこどもワークショップは、当時の臨時職員(在学生アルバイト)の要望によって始められたものだった。それから毎年、博物館で働く学生たちが入れ替わろうともワーク

作成日 2014年 8月 7日
ワークショップ実施報告書

プログラム	わたしたちのせいなんミュージアム
実施日	2014年 8月 2日(土)
会場	西南学院大学博物館・西南コミュニティセンター
申込人数	12名
参加者	4名
プログラム概要	<p>【目的】ワークショップを通して、物産を様々な視点で見え、まとめる能力を身につける。U・I・Jの目標に即しての集約の取り組み方を体験し、博物館で具体的に学ぶ姿勢を促す。また、子どもたちに夏休みの自由研究として、学習成果物を持ち帰ってもらう。保護者に対しては、ワークショップの成果パフォーマンスを行う。</p> <p>【活動内容】 -学習ノート 常設展、博物館建物、特別展示に関する問題集、および、作品の講義と、自分の考える博物館を書籍・書籍、感想、スタッフへのメッセージ。 学年ごとに問題集を配り、博物館内を案内し、展示品や博物館を見ながら答えを出していく。 -学習成果発表会 学習ノートに取り組んだ授業を発表してもらう。 問題集の答え合わせから、中・高学年は「夢のミュージアム」を、高学年は展示品の講義を発表してもらう。 保護者にも発表会の様子を見守ってもらう。 発表の最後に、スタッフや保護者から感想をもらい、子どもたちに成果を褒めてもらう。</p>
総評	<p>【自己評価目】(A~Eの5段階) 参加者が少なかったが、それがあって学生ボランティアや実習生による子どもたちへの丁寧なフォローにならなかった。 問題集を解くために博物館内を探検することで、子どもの集中力も持続できた。 発表に際しても、スタッフたちのフォローの下、全員が積極的に参加、発表することができた。 保護者からの満足の声も聞けた。</p>
評価すべき点	<ul style="list-style-type: none"> 子どもボランティアスタッフがしっかりと向き合い、穏やかなフォローができた点 参加者の活動や発表への積極的な取り組みがめられた点 保護者から満足、感想が聞けた点 ボランティア、実習生からも満足の声が聞けた点
改善点と課題	<ul style="list-style-type: none"> 参加人数が少なく、やや手待ち無沙汰なスタッフがいた点。 参加者が多数の場合のグループ活動の仕組みに、準備にどのくらいか不明。 課題「夢のミュージアム」に取り組み時間をもう少しとるべきだった。
解決策	<ul style="list-style-type: none"> 課題決定に仕事の指示を出す。 集団行動の場合の想定を練っておく。 発表準備時間(15分)を多めにのる。
参加者の声	<p>いつも以上に楽しんでいたのしかったです(参加者) -人前で発表している息子をみて感動しました(保護者)</p>
学生ボランティアについて	<p>【参加ボランティア人数】3名(男性 名 女性 3名) 【参加実習生人数】4名(男性 名 女性 4名) 1人のことを世話するからとなり、順番に子どもに接する事がめられた。 満足度が高いよう次回以降の参加を期待したい。</p>
学芸員評	<p>【総評】 【教育効果】 【事業(費用対)効果】 (A~Eの5段階)</p>

図8 ワークショップ実施報告書

実施状況(記録写真)



ショップは引き継がれ、毎回の担当者ごとに趣向を凝らしたものが今日まで開催されてきた。このことは西南学院大学博物館が積極的に取り組んでいる「実践力がある博物館職業人の育成」の一助となっているといえるだろう。大学博物館の使命のひとつである学生のための在り方にも準ずるものでもある。また、担当者が統一されないゆえに、担当者の特色に沿った個性豊かなワークショップが行われる利点もある(付録参照)。

一方で、課題として浮きあがるのは、ワークショップの担当者が入れ替わりの激しい学生アルバイトであることから、各ワークショップの内容に関するレベルが一定を保てないことである。何をもって行われたワークショップを評価するのかにより、基準となるレベルも決まるが、この場合、ワークショップが目指すべき3つの要素が鍵となるだろう。すなわち「コンセプト：楽しみながら学べる」、「目的：西南学院の理解、大学博物館への親近感、展示への関心づくり」、「特色：キリスト教文化、教育文化、地域文化、西南学院史等」だ。この認識の徹底が現状ではなされていないといえる。

ワークショップの企画運営など、新規の学生アルバイトのほとんどが未経験である。そのため、まずワークショップ経験者が主担当となったワークショップの副担当につき、ある程度のノウハウをそこで学ぶこととなる。ワークショップ準備マニュアルも存在し、ワークショップのすべての企画には学芸員のチェックもはいる。しかし、それらの指導の中でこれまでワークショップの目指す方針が十分に共有されていたかといえれば否であった。指導係となる主担当者が統一されていないうえ、主担当者自身もまた、明確な方針を十二分に理解しないまま引き継いできたためだ。その主な原因は、教育普及活動におけるワークショップの方針が博物館の共通意識として浸透していないことがあげられる。雇用形態上、長期間の統一指導者を設けることが難しい現状で、そういった意味でも、ワークショップの方針と具体的な運用方法を提示する意義が本稿にはある。

また、一部例外はあるもののこれまでのワーク

ショップは小学生のみを対象としたものに限定されてきた。本稿では紹介していないが、2016年度に試験的に行われた一般向けのワークショップ(2016年10月開催「博多おきあげをつくろう」)での参加者アンケートでは、大人向けのワークショップ開催の要望が多くみられた。今後は、小学生のみではなく一般を対象としたワークショップの導入を本格的に検討すべきだろう。

また、博物館への親しみを促す学生向けのイベントの必要性も高まってきている。限られた一部の学生しか参加できないボランティア形式にとどまるのではなく、学生のための大学博物館の存在意義と周知をはかるためにも、対策を講じていく必要があろう。その際にはより発展したワークショップを実現するためにも、これまでの蓄積を形にした本稿が少しでも後進の役に立てばと願うものである。

なお、本稿は、西南学院大学博物館が申請した本学教育研究推進機構学内GP(グッド・プラクティス、研究推進助成)「大学博物館における高度専門職学芸員養成事業」の成果の一部である。

末筆ではありますが、これまで博物館の教育普及活動に携わっていただきました関係者および参加者の皆様に記して感謝の意を表します。

付録1. 2010～2015年度 せいなんこどもワークショップ

2010年度から2015年度までで、博物館で開催されたワークショップは以下の通りである。とくに明記がない場合、参加者は事前募集で募った小学生が対象となる。計28回に及ぶワークショップが開催され、そのうち中止となったものはない。

2010年度 第1回～第6回

第1回「西新の歴史マップを作ろう」

日時：2010年10月30日(土)

13時～16時30分(3時間30分)

目的：地域の歴史文化を学ぶ

参加者：12名、保護者1名

学生ボランティア：8名

内容：①西新地区の名所旧跡を散策：西南学院大学1号館内元寇防塁、元寇防塁、防塁神社、ちんちく堀、猿田彦神社(神社参拝の指導)、紅葉八幡宮、西新商店街、勝鷹神社
②2グループに分かれて白地図に西新の歴史マップを作成
③グループ発表

第2回「音楽とお話に親しもう」

日時：2010年11月13日(土)10時～12時(2時間)

目的：(1)特別展「海を渡ったキリスト教」関連イベント

(2)キリスト教文化(音楽)と親しむ

参加者：14名

学生ボランティア：4名

内容：①学芸員による特別展のギャラリートーク
②クリスマス音楽の合唱
③西南学院大学応援指導部吹奏楽団によるサクソ演奏と演奏体験
④大学音楽主事によるパイプオルガンの演奏体験

第3回「クリスマスのグリーティングカードを作ろう」

日時：2010年12月11日(土)10時～12時(2時間)

目的：キリスト教の文化・行事(クリスマス)と親しむ

参加者：21名

学生ボランティア：15名

内容：①大学宗教主事によるクリスマスの講話
②クリスマスカード(クリスマスツリーが飛び出す仕組み)の作成

第4回「お正月について学ぼう！

留学生のお兄さんお姉さんと餅つきをしよう」

日時：2011年1月8日(土)14時～16時(2時間)

目的：(1)日本の文化・行事(正月)に親しむ

(2)留学生との交流

参加者：20名、保護者9名

学生ボランティア：2名

内容：①学芸員による正月の講和
②留学生別科の学生との餅つき(もち米、古代米)体験
③餅の成形、実食

第5回「鬼の面をつくろう」

日時：2011年2月5日(土)10時～12時(2時間)

目的：日本の文化・行事(節分)に親しむ

参加者：14名

学生ボランティア：11名

内容：①大学非常勤講師(民俗学)による節分の講和
②鬼のお面をつくる
③豆まき体験

第6回「おひなまつりをしよう」

日時：2011年3月12日(土)10時～12時(2時間)

目的：日本の文化・行事(ひなまつり)に親しむ

参加者：11名

学生ボランティア：4名

内容：①博物館職員による雛祭りの講話
②貝合わせを模した絵合わせカードづくり
③貝合わせ大会

2011年度 第7回～第12回

第7回「船のペーパークラフトをつくろう」

日時：2011年6月25日(土)10時～12時(2時間)
 目的：(1)特別展「天草－祈りの原点とキリシタン文化－」関連イベント
 (2)日本の船と南蛮船(西洋諸国の船)との違いを知る

参加者：23名

学生ボランティア：8名

内容：①博物館職員による特別展のギャラリートーク
 ②南蛮船のペーパークラフト作成

第8回「ドージャ探検隊!－十字架のありかを探せ－」

日時：2011年8月27日(土)10時～12時(2時間)
 目的：クイズを通して展示品への興味・関心を引き出す

参加者：26名

学生ボランティア：9名

博物館実習生：5名

内容：①十字架の図像をもつ展示品にまつわるクイズと館内マップがかかれたワークシートをたよりに、クイズにあげられている十字架の図像をもつ展示品を探しながら、グループごとに博物館内を見学し、クイズを解く
 ②2階講堂において、博物館実習生によるクイズの答え合わせと解説
 ③ドージャ探検隊のメダルとして参加者の名前入りの缶バッジを記念に渡す

第9回「せいなんミュージアムカードをつくろう」

日時：2011年9月17日(土)10時～12時(2時間)
 目的：(1)博物館内の展示品を観察し、そこでの小さな気づきや発見の喜びを絵手紙にして誰かに伝える
 (2)博物館や展示に親しみを持ってもらう

参加者：30名

学生ボランティア：8名

内容：①グループに分かれ、学生ボランティアによる展示品等のギャラリートーク
 ②展示品のスケッチ
 ③絵手紙の作成”

第10回「みんなで仮装しよう！

－ミュージアムでハロウィンを－」

日時：2011年10月8日(土)10時～12時(2時間)
 目的：ハロウィンを通して、キリスト教やケルトの人々の文化を体験する

参加者：35名

学生ボランティア：10名

内容：①ハロウィンについての講話(歴史、由来、ジャック・オ・ランタンの紙芝居、仮装をする意味)
 ②ハロウィン仮装の衣装づくり(黒のビニール、画用紙、折り紙、スパンコールなどの材料を使って帽子や衣装を作成)
 ③Trick or Treatという習慣の由来と意味の説明
 ④作成した衣装を着用し、博物館内で「Trick or Treat」を体験(お菓子をもってスタッフが待機している3か所を探して回る)

第11回「松ぼっくりでクリスマスツリー！」

日時：2011年12月10日(土)10時～12時(2時間)
 目的：クリスマスのお話や、クリスマスツリー製作を通して、クリスマスの文化に触れその意味を知ってもらう

参加者：28名

学生ボランティア：10名

内容：①クリスマスの講話(サンタクロースの紙芝居、クリスマスツリーのオーナメントについてのパネル解説)
 ②松ぼっくりクリスマスツリーの作成(松ぼっくりに綿やスパンコールの装飾)
 ③クリスマスツリーを飾る台紙(色画用紙)の作成

第12回「2000年前の生活体験—勾玉をつくろう—」

日 時：2012年3月3日(土)10時～12時(2時間)

目 的：古代の服飾文化について学ぶ

参加者：39名

学生ボランティア：8名

内 容：①2000年前の人々の服飾についてのクイズ
②勾玉作成(滑石を紙やすりで削り成形する)

ニケーションも楽しんでもらう

参加者：10名

学生ボランティア：7名

博物館実習生：1名

内 容：①グループごとに館内をウォークラリー
(館内の展示・建物にまつわるクイズと
ヒント、自由記述用のカードを配布)
②クイズの答え合わせと解説
③ウォークラリーバッチの進呈

2012年度 第14回～第16回

第14回「みんなのせいなんすいぞくかん」

日 時：2012年9月29日(土)10時～12時(2時間)

目 的：(1)博物館実習成果展「ギョギョギョ西南☆
海ステリー博」関連イベント

(2)シルエットのみという自由度の高いぬり
えを通して、子どもたちの想像力を刺激
し、表現する面白さを感じてもらう

(3)展示に関連した魚のシルエットを使うこ
とによって展示への興味関心を促す

参加者：小学生23名

学生ボランティア：8名

博物館実習生：9名

内 容：①博物館実習生による実習成果展の案内
②シルエットぬりえに自由に色を塗り、オ
リジナルの魚を考える
③塗り終わった魚を台紙にはり「せいなん
すいぞくかん」を作成
④各自のぬりえの中から魚を一匹選び「み
んなのせいなんすいぞくかん」のパネル
を作成

第15回「せいなんウォークラリー」

日 時：2012年11月17日(土)10時～12時(2時間)

目 的：(1)大学博物館の建物や展示に関するクイズ
を解きながら館内を見学することで、普
段はなかなかじっくり観察することのな
い資料や建物、博物館という施設につい
て興味をもってもらう

(2)グループで行動することで普段接するこ
とのない他学年・学校の児童とのコミュ

第16回「粘土をつかった古代モノづくり」

日 時：2012年12月1日(土)10時～12時(2時間)

目 的：スタッフの専門性を活かし、考古学、古代
史を身近に触れてもらう

参加者：21名

内 容：①古代のモノづくりの講話(土器の用途、
製作工程など)
②粘土を使ったモノづくり体験

2013年度 第17回～第21回

第17回「せいなんウォークラリー」

日 時：2013年5月18日(土)10時～12時(2時間)

目 的：(1)博物館、大学の魅力にも興味をもっても
らう
(2)他校・他学年の児童と同グループで行動
する事で様々な人と協力をするというこ
とを学ぶ

参加者：15名

学生ボランティア：9名

内 容：①グループごとにキャンパス内をウォーク
ラリー(地図、クイズカード、自由記述
用のカードを配布)
②クイズの答え合わせと解説
③ウォークラリーバッジの進呈

第18回「万華鏡をつくろう」

日 時：2013年7月20日(土)10時～12時(2時間)

目 的：(1)特別展「平戸松浦家の名宝と禁教政策」関
連イベント

- (2)万華鏡という実例を通して海を通して諸外国から日本に入ってきた文化を日本が受け入れ活用していたことを学ぶ
- (3)スケッチを通しての展示資料の観察
- (4)鏡の反射の仕組みを体験する

参加者：29名

学生ボランティア：7名

- 内 容：①万華鏡についての概説
- ②博物館職員による特別展、常設展のギャラリートーク
 - ③万華鏡の軸紙(博物館オリジナル)に展示資料のスケッチ
 - ④万華鏡の作成

第19回「カリグラフィーをかこう」

日 時：2013年9月7日(土)10時～12時(2時間)

目 的：(1)博物館実習成果展「海の玉手箱展」関連イベント

- (2)常設展示室の写本や外国語への興味関心を促す

参加者：28名

学生ボランティア：3名

博物館実習生7名

- 内 容：①実習生による実習成果展と博物館職員による常設展示室のギャラリートーク
- ②手作り本の作成(ローマ字で名前を書く)

第20回「大学博物館まるごとツアー」

日 時：2013年11月9日(土)10時～12時(2時間)

- 目 的：(1)博物館と聖書植物園の資料、植物の観察
- (2)キリスト教についての知識を深める
 - (3)他学年、他学校とのコミュニケーションづくり

参加者：12名

学生ボランティア：3名

- 内 容：①グループごとに館内と植物園内をスタンプラリー(スタンプカード、スタンプ設置場所のヒントシートを配布)
- ②スタンプを設置した展示資料の解説

- ③集めたスタンプのワードを並べ替えてキーワードを完成させる

第21回「イースターエッグをつくろう」

日 時：2014年3月8日(土)10時～12時(2時間)

目 的：キリスト教文化(イースター)を学ぶ

参加者：24名

学生ボランティア：1名

- 内 容：①イースターについての講話
- ②イースターエッグづくり(お絵かき用のエッグ型にデザイン、着色)

2014年度 第22回～第25回

第22回「バッチをつくろう！-草花のかんざつー」

日 時：2014年5月17日(土)10時～12時(2時間)

目 的：(1)聖書植物園を、聖書を学びながら春の季節も体感する

- (2)留学生による異文化交流(ドイツ文化)

参加者：13名

学生ボランティア：4名

留学生：1名

- 内 容：①聖書に登場する植物のレクチャー
- ②聖書植物園の散策(クイズシート配布)
 - ③留学生によるドイツ文化の紹介
 - ④記念缶バッチ作成

第23回「わたしたちのせいなんミュージアム」

日 時：2014年8月2日(土)10時～12時(2時間)

目 的：(1)特別展「海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—」

- (2)博物館で主体的に学ぶ姿勢をはぐくむ
- (3)物事を様々な視点で捉え、まとめる能力を身につける
- (4)参加者だけでなく保護者にもワークショップの成果を実感してもらう
- (5)博物館実習生への実践的教育

参加者：4名

学生ボランティア：3名

博物館実習生：4名

- 内 容：①学習ノートを配布し、ボランティアや実習生とともに博物館内を探索し問題を解いて回る。
- ②学習成果発表会(学習ノートに取り組んだ成果を保護者の前で発表)
- ③学生ボランティア、実習生、保護者からメッセージ

第24回「ヘブライ語でうたってみよう」

- 日 時：2014年11月15日(土)10時～12時(2時間)
- 目 的：(1)特別展「ジュダイカ・コレクションⅢ 祈りの継承－ユダヤの信仰と美術－」関連イベント
- (2)ユダヤ教(旧約聖書)の文化に親しむ
- 参加者：2名
- 内 容：①ユダヤ教についての学習(ユダヤ教について、大学院生によるヘブライ語クイズ)
- ②特別展見学
- ③ヘブライ語での合唱(マイムマイム)”

第25回「しおりをつくってみよう」

- 日 時：2015年3月14日(土)10時～12時(2時間)
- 目 的：(1)「しおり」という本にまつわる道具の製作を通し、本がなんのためにあるのかを学ぶ
- (2)博物館が所蔵する本に注目した見学を行うことで、展示見学の際に意識する視点を学ぶ
- 参加者：10名
- 内 容：①本に関するクイズ形式の講話(本の機能、博物館にある本の紹介、しおりの成り立ち)
- ②博物館の「本」さがし(問題シートの配布。博物館見学。お気に入りの本探し)
- ③オリジナルしおりづくり(消しゴムスクラッチによるオリジナルしおりの制作)

2015年度 第26回～第28回

第26回 せいなん+とうほく「東北の”すべらない話”」

- 日 時：2015年7月5日(日)10時～12時(2時間)

- 目 的：(1)大学博物館共同企画特別展「Nexus」関連イベント
- (2)東北の学生との交流を通して復興の続く東北の姿に触れる機会を提供する
- (3)大学博物館が合同で開催することによって、ワークショップをひとつの学生交流の機会とする

形 態：自由参加制

参加者：6名

東北学院大学博物館学生スタッフ：4名

- 内 容：①スタンプラリー形式で、東北学院大学博物館のブース(2か所)と西南学院大学博物館のブース(1か所)をまわる
- ②東北学院大学博物館ブース(1)東北の祭りである金魚ねぶたを紹介し、金魚ねぶたづくりを体験(2)東北地図のパズルを解きながら、各県の特産物や位置を知ってもらう
- ③西南学院大学博物館ブース：七夕にちなんだ飾り絵馬づくり

第27回「マール紙をつくろう」

- 日 時：2015年8月29日(土)10時～12時(2時間)
- 目 的：(1)博物館実習成果展「ユダヤの信仰と動物」関連イベント
- (2)水や色、絵の具の性質を体感する
- 参加者：9名
- 博物館実習生：5名
- 内 容：①学芸員課程の実習生が進行の主体となって様々な紙にマールリングを施す
- ②マール紙が乾く間、実習生による実習成果展の案内

第28回「拓本をとろう！」

- 日 時：2015年11月28日(土)10時～12時(2時間)
- 目 的：(1)特別展「南蛮－NAMBAN－昇華した芸術」関連イベント
- (2)博物館が所蔵展示する拓本に興味関心を促す

- (3)学芸員の調査・保存・収集活動の一端を知ってもらう
- (4)留学生との交流

参加者：6名

留学生：2名

- 内 容：①拓本のやり方の説明と実演
- ②葉、松かさ、硬貨などを拓本
- ③博物館職員による特別展のギャラリートーク

付録2. 2014～2015年度 せいなんおでかけワークショップ

「せいなんおでかけワークショップ」は2014年度より産官学連携事業の一環として開始された館外で開催されたワークショップである。こちらの詳細はまた別の機会に報告できたらと考えている。

2014年度 第1回～第5回

第1回「バッチ作りにちょうせん！」

- 日 時：2014年8月5日(火)14時～16時(2時間)
- 場 所：長崎県南島原市西有家図書館
- 目 的：(1)産官学連携の特別展示「海路—海港都市とキリスト教受容のかたち—」の一環事業
- (2)図書館の活用促進

参加者：24名

- 内 容：①図書館からバッチに使う資料(本)を借りてくる
- ②バッチ制作

第2回「ポルトガル船づくりに、ちょうせん！」

- 日 時：2014年8月6日(水)10時～12時(2時間)
- 場 所：長崎県南島原市有家図書館
- 目 的：(1)産官学連携の特別展示「海路—海港都市とキリスト教受容のかたち—」の一環事業
- (2)日本近世において外国から来た船がもたらしたもの、その役割などを楽しみながら学ぶ

参加者：33名

- 内 容：①南島原市教育委員会職員によるポルトガル船についての講話(資料配布)
- ②ポルトガル船のペーパークラフト作成

第3回「地球儀を作ってみよう！」

- 日 時：2014年8月6日(水)14時～16時(2時間)
- 場 所：長崎県南島原市原城図書館
- 目 的：(1)産官学連携の特別展示「海路—海港都市とキリスト教受容のかたち—」の一環事業
- (2)世界地図等と比較しながら、人々がいかなる「世界」を見ていたのかを、制作を通して学び考えてもらう

参加者：23名

- 内 容：①南島原市教育委員会職員による天正欧遣少年使節についての講話
- ②地球儀のペーパークラフトに日本や好きな国、知っている国などに色を塗る
- ③地球儀のペーパークラフト作成

第4回「天草四郎をエコ・デコレーション

in 原城図書館」

- 日 時：2014年11月15日(土)10時～12時(2時間)
- 場 所：長崎県南島原市原城図書館
- 目 的：(1)産官学連携サテライト展示「島原・天草一揆の実像と記録」の一環事業
- (2)展示中の「天草四郎肖像」をモチーフとした作品づくりを通して、天草四郎や、島原・天草一揆への興味関心を促す

参加者：34名

- 内 容：①南島原市教育委員会職員による島原・天草一揆についての講義
- ②天草四郎をエコ・デコレーション(A0のシートに印刷された天草四郎のイラスト(2種類)をもとに、こどもたちが各パーツを担当し、いらなくなったチラシやポスターなどを使って貼り絵、デコレーションを行う)
- ③完成後、図書館内にて展示

第5回「天草四郎をエコ・デコレーション

in 天草キリシタン館」

日 時：2015年3月15日(日)10時～12時(2時間)
場 所：長崎県南島原市天草文化交流館
目 的：(1)産官学連携の特別展「西南学院大学博物館コレクション展Ⅰ」(開催：天草キリシタン館)の一環事業
(2)展示中の「天草四郎肖像」をモチーフとした作品づくりを通して、天草四郎や、島原・天草一揆への興味関心を促す

参加者：12名(保護者含む)

内 容：①天草キリシタン館学芸員による天草キリシタン館講義
②天草四郎をエコ・デコレーション
③完成後、天草キリシタン館にて展示

2015年度 第6回～第10回

第6回「せいなん+とうほくこどもワークショップ

in 東北学院大学博物館」

日 時：2015年7月11日(土)10時～12時(2時間)
場 所：東北学院大学博物館
目 的：(1)大学博物館共同企画特別展「Nexus」関連イベント
(2)東北学院大学博物館で行われているワークショップの実見と学生交流

形 態：自由参加制

参加者：53名(保護者含む)

内 容：①東北学院大学博物館の駐車場にテントを設置。西南2ブース(センス、絵馬)東北2ブース(金魚飾り、拓本)。机と椅子を並べて、受付が終了したこどもから好きなブースでワークショップ。作業がおわるとスタンプを押して次のブースへ。
②「おもしろセンス」センスキットをつかって、センスを手作りする。羽の部分は自由にお絵かきをする。
③「飾り絵馬づくり」仙台七夕にあわせて、厚紙製の絵馬に願い事を書き、好きな紐を通して完成。

第7回「手作りカルタでご紹介!

～わが家オススメの一冊～」

日 時：2015年7月19日(日)10時40分～12時(2時間40分)
場 所：長崎県南島原市有家図書館(ありえコレジョホール)
目 的：(1)官学連携事業の一環として南島原市教育委員会主催「おはなしカーニバルin南島原」への参加
(2)図書館の活用促進

形 態：自由参加制

参加者：15名(大人含む)

内 容：①図書館の案内のもと、おすすめの本を一冊借りる
②借りてきた本の紹介シートを作成
③紹介する本にちなんだカルタ(絵札、読み札)を作成
④作成したカルタでカルタ取り遊び

第8回「世界にひとつだけ!

オリジナル缶バッジをつくろう」

日 時：2015年8月2日(日)10時～12時(2時間)
場 所：長崎県南島原市有家図書館(ありえコレジョホール)
目 的：(1)官学連携事業の一環として「南島原市から世界遺産を」運動への参加
(2)文化財への興味関心づくり

参加者：33名

内 容：①南島原市教育委員会世界遺産登録推進室の職員によるこども向け講義
②オリジナル缶バッジの作成：デザインシートにお絵かきした後、その中からふたつを選んでもらい缶バッジにする。

第9回「親子でつくろう!オリジナル万華鏡」

日 時：2015年8月2日(日)13時30分～15時30分(2時間)
場 所：長崎県南島原市口之津図書館

目的：(1)官学連携事業の一環としてのイベント
開催

(2)図書館の活用促進

参加者：34名(保護者含む)

内容：①図書館の案内のもと、おすすめの本を借りる

②万華鏡の軸紙シートに借りてきた本のお
絵かきをする

③万華鏡の作成

第10回 「世界にひとつだけ！

オリジナル缶がバッチをつくろう！」

日時：2015年9月26日(土)10時～12時(2時間)

場所：長崎県南島原市原城図書館

目的：(1)産官学連携の特別展「東西交流の軌跡」
(開催：有馬キリシタン遺産記念館)の一
環事業

(2)上記特別展関連展示会場での学びの提
供

参加者：14名

内容：①南島原市教育委員会世界遺産登録推進室
の職員によるギャラリートーク

②オリジナル缶バッチの作成：デザイン
シートにお絵かきした後、その中からふ
たつを選んでもらい缶バッチにする。

註

- 1 駒見和夫『博物館教育の原理と活動－すべての人の学びのために－』
学文社、2014、36頁
- 2 1章「生涯教育の定義」
- 3 神野善治ほか『ミュージアムと生涯学習』武蔵野美術大学出版局、
2008、32頁
- 4 2004(平成16)年に旧本館・講堂が「福岡市指定有形文化財」、「保存
建物」に指定され、2014(平成27)年に「福岡県指定有形文化財」(建造
物)に指定された。

参考文献

- 安高啓明ほか『西南学院大学博物館事業報告Ⅰ 大学博物館連携事業－
官学・産官学連携事業報告書－』西南学院大学博物館、2015
- 駒見和夫『博物館教育の原理と活動－すべての人の学びのために－』学文
社、2014
- 高倉洋彰・安高啓明編『日中韓博物館事情－地域博物館と大学博物館－』
雄山閣、2014
- 加藤里美『國學院大學学術資料センター研究報告第30輯2014年3月』「大
学博物館としての教育普及プログラムの試み－ミュージアムトークから
ワークショップ「探検！ミュージアム」まで－」2014
- 栗田信司『大学改革と生涯学習：山梨学院生涯学習センター紀要第17号』
「生涯学習としての「博物館における教育普及活動」」2013
- 小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄編『博物館教育論 新しい博物館教
育を描きだす』ぎょうせい、2012
- 寺島洋子『博物館教育論』放送大学教育振興会、2012
- 神野善治ほか『ミュージアムと生涯学習』武蔵野美術大学出版局、2008
- 栗田信司『大学改革と生涯学習：山梨学院生涯学習センター紀要第17号』
「生涯学習としての「博物館における教育普及活動」」2013

山尾 彩香(やまお あやか)

西南学院大学博物館学芸研究員